

優秀賞

また会いに行くからね

徳島県 津田小学校 六年
和田 七海

私の祖母は、3月末に入院したときに、認知症が始まっていることがわかりました。進行が早く、私と妹の顔や名前をすぐに忘れてしまうそうです。入院中から母は、祖母に毎日電話をしていましたが、娘である母のことも忘れてしまうことが多いようです。

祖母の入院中は、コロナのために面会のルールが厳しく、一度も会えませんでした。なので、祖母が早く元気に退院できるように、妹と色紙に応援メッセージを書いて、病室に届けてもらいました。

7月の3連休に、祖父母の家へ行きました。6月に退院した祖母が笑顔で、

「やっと会えたね。」

と、私と妹を出むかえてくれました。妹といっしょに書いた色紙は、テレビの横に飾ってくれていて、うれしく思いました。

私と妹は、

「おばあちゃんは認知症だから、顔も名前も覚えてないけれど、気にしないこと。名前を聞かれたら、毎回ちゃんと答えてあげてね。」

と、母に言われていました。けれど、祖母といっしょに過ごした3日間、名前を聞かれることはありませんでした。私は、祖母の認知症が本当に進行しているようには思えませんでした。父も、私と同じように感じたそうです。母は、

「おばあちゃんは、気をつかってくれていたんだよ。」

と言います。母には、祖母の表情やちょっとした言動で、今はみんなに話の調子を合わせたなどか、理解できてないなどわかるそうです。私は、そんな祖母の変化を感じながらも、母がいつもと変わらない調子で会話を進めることができるのも、すごいなと思いました。

8月に入り、伯母から電話がありました。祖父母の家からかけてきていて、ビデオ通話をしました。電話で話す祖母は、私の名前をすっかり忘れていました。7月は、祖母は私が一人でいても、私が母の娘だと認識していました。母が伯母に、

「7月は、七海^{ななみ}の母親が私だとちゃんと認識していたよ。」と言うと、伯母が、

「七海はゆかりの娘、って書いたメモを作っているみたい。」と教えてくれました。母は祖母に負担をかけまいと、孫の名前をメモしてしっかり覚えるように、とは言っていません。

「名前を忘れたら、いつでも聞いていいよ。」

と祖母に言っている母を、私は目の当たりにしていました。なので、孫の名前を忘れても思い出せるように、祖母がメモを書いてくれていたことに、胸がいっぱいになりました。

「家族として、大事にされているのよ。」と言う母の言葉に、その通りだなと思いました。

認知症になっても、家族の大切さは変わりません。また、祖母に会いに行って、楽しい会話をして、笑顔にさせてあげたいです。